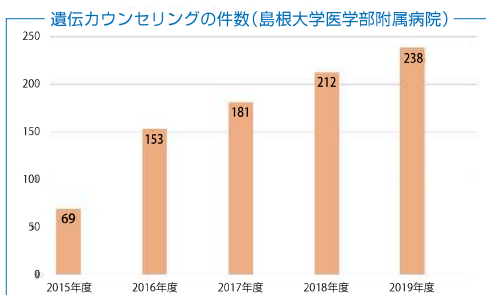




臨床遺伝診療部の医師と遺伝カウンセリングの内容について話し合いをします。  
写真は筆者と臨床遺伝専門医の鬼形医師です。

## 臨床遺伝診療部に新たに配置されました

看護部/臨床遺伝診療部 副看護師長 あらき 荒木 こ もも子



当診療部では遺伝性腫瘍・神経難病等を含む遺伝性疾患、出生前診断、小児における希少疾患などを中心に院内の各科と連携を図り遺伝カウンセリングを行っています。  
年々とカウンセリング件数は増加(2019年度238件)しております。

当診療部では、来談された方々とのコミュニケーションを通し、「本当の困り事や知りたい事」は何だろうと、共に整理します。そして、その内容に基づき、臨床遺伝診療部の専門医師と医学的根拠に基づいた情報提供を行い、その上で遺伝子検査をするメリット・デメリットを共に考えるなど、意思決定における支援をさせていただいております。

遺伝子の解析技術は進展し、今後、診断や治療方針に遺伝情報は欠かせないものとなることが予想されます。しかし、生まれ持った遺伝情報は生涯変わらない、血縁者間で共有する等の特徴もあり、遺伝子検査受検に際しては、倫理的側面など慎重に考える必要があります。

今後の課題としては、まずは遺伝カウンセリングを皆様に認知いただくこと、来談された方々に対するフォローアップ体制の強化を行っていく必要があると考えております。

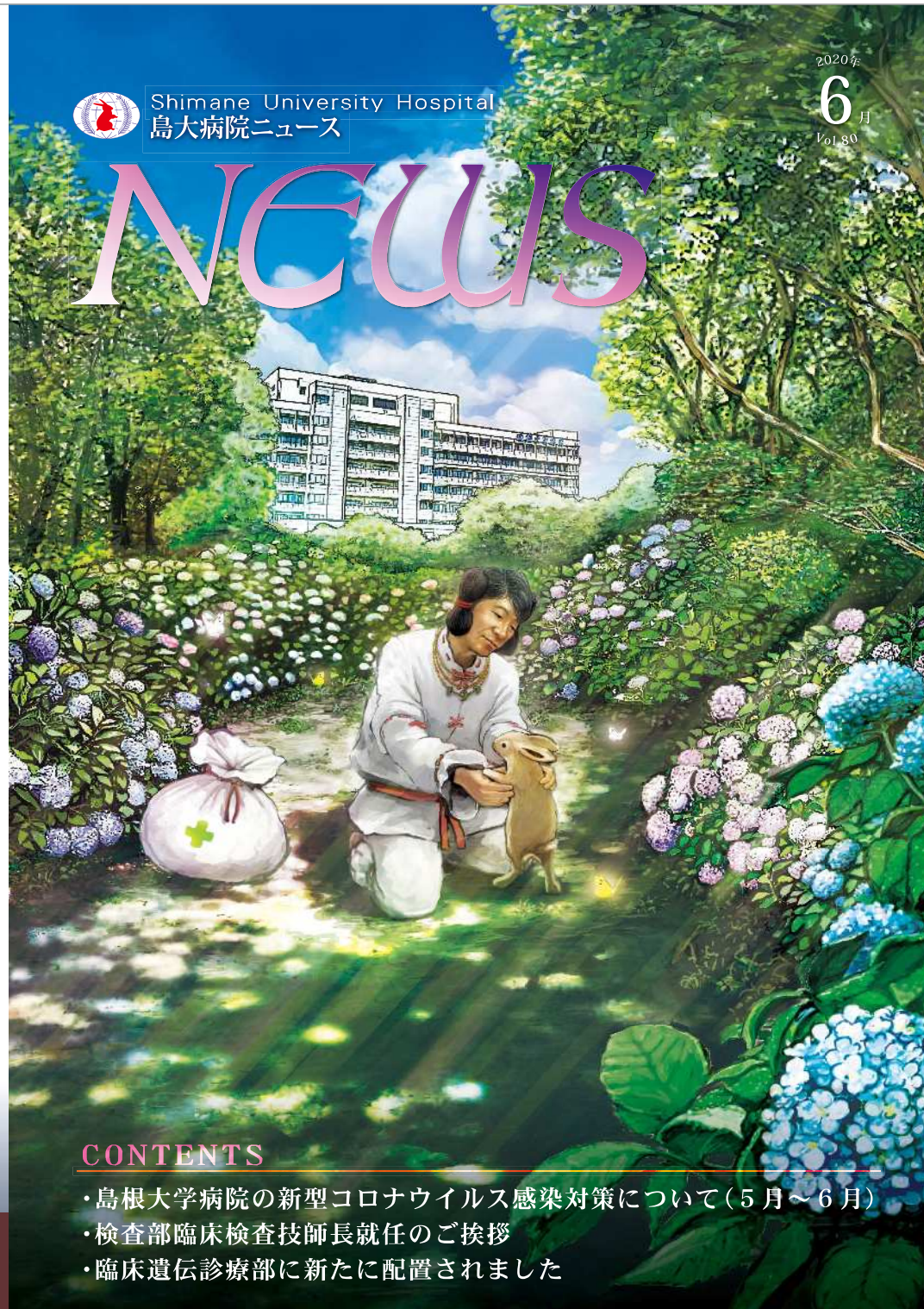
関西の大学の大学院にて2年間「遺伝カウンセリング」について学び、この度2020年4月より専任看護師として臨床遺伝診療部に配置されました。遺伝カウンセリングとは、「疾患の遺伝学的関与について、その医学的影響、心理学的影響および家族への影響を人々が理解し、それに適応していくことを助けるプロセス」と定義されています。

実際の相談内容としては、「遺伝性の病気の可能性がある」と主治医に言われた。詳しいことを知りたい。「家族にがんが多い。遺伝性のリスクがあるのなら知りたい。」「高齢妊娠のため、赤ちゃんに病気があるか心配だ。」など、相談にいらっしゃる方々の背景は様々です。

Shimane University Hospital  
島大病院ニュース

2020年  
6月  
Vol.80

# NEWS



## CONTENTS

- ・島根大学病院の新型コロナウイルス感染対策について(5月～6月)
- ・検査部臨床検査技師長就任のご挨拶
- ・臨床遺伝診療部に新たに配置されました





# 島根大学病院の 新型コロナウイルス感染対策について

5月～6月

いがわ みきお  
病院長 井川 幹夫

県内の新型コロナウイルス感染者は、5月2日の24例目以降、新たな陽性例は発生せず、島根県においても5月14日に緊急事態宣言が解除され、当院のCOVID-19対策委員会の開催も週2回から1回に減らしています。第1の波のピークは過ぎていると判断されますが、当院はECMOなどによる医療が提供可能な「重症管理指定医療機関」に指定されていますので、常に緊張感を持って病院運営を実施している状況です。

日本病院会、全日本病院協会、日本医療法人協会の3団体の本年4月の速報値によると、新型コロナウイルス感染症患者を受け入れた病院では、外来患者、入院患者ともに減少し、医業収入、医業利益率ともに悪化がみられています。全国医学部長病院長会議がまとめた今年4月の全大学病院の実績によると、ICU確保のためや感染リスク回避のための手術件数減少、侵襲的検査の制限等、さらに新型コロナ対応経費の増加が特に都市部に存在する大学病院の運営に影響を及ぼしているようです。当院では、4月分の診療稼働額には大きな影響は認められませんでした。5月分の診療稼働額の低下が目立ってきています。4月30日に成立した補正予算の中で、新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金が創設され、当院も交付金の趣旨に沿った整備を行い、第2波に備えた体制強化を図ります。

PCR検査については、当院は行政検査を補完する位置づけですが、新たに核酸・タンパク質精製装置、PCR測定装置を導入して、院内で検査可能なPCR件数を増やし、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科、脳神経外科（下垂体腫瘍）などの術前、全身麻酔、感染リスクがある内視鏡等の検査では予めPCRを行う計画としています。今後、院内で実施可能なPCR件数が増加し、唾液が検体として妥当であることが確認できれば、PCRを実施する対象患者を拡大したいと考えています。PCRの他に、抗原検査は導入予定で、抗体検査についても評価がほぼ定まった時点で導入し、患者さんはもちろん、医療スタッフ、臨床実習生に安全な環境を提供したいと考えています。地域の医療機関の皆様には、今後ともご支援・ご協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

## 検査部臨床検査技師長就任のご挨拶

検査部 臨床検査技師長 荒木 剛

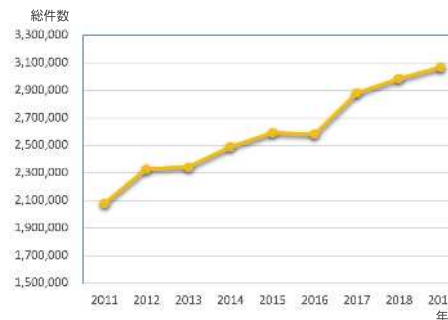
本年4月1日より検査部臨床検査技師長を拝命いたしました、荒木 剛と申します。1995年より当院の前身である島根医科大学医学部附属病院検査部へ入職して以来、主に病理検査を中心に一般検査や生化学検査に携わって参りました。これまでの経験を活かし努めてまいりたいと思います。

さて、当院検査部は1979年に設置され今年で41年目になります。この長い当検査部の歴史の中での特徴の一つに、現在では当たり前のように使用されているコンピューターを活用した検体自動搬送システムを全国に先駆け導入したことが挙げられます。近年の医療技術の進歩は目覚ましく、機器の自動化やシステム化も以前とは比べ物にならないくらい進化いたしました。そして毎年、多くの検査を行っています(図1)。その中で我々臨床検査技師も機器を用い検査結果を提供するだけでなく、より付加価値の高い臨床検査を提供するとともに医師の診断治療をサポートする臨床検査技師になるよう努めています。その為に、臨床検査室の国際規格「ISO 15189(臨床検査室 - 品質と能力に関する特定要求事項)」を2017年10月に取得し現在に至っています。

これからも地域医療の中核病院の検査部として先進的な医療や地域医療を支える検査室づくりに貢献したいと思います。今後とも皆様からの変わらぬご指導・ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。



図1 検査総件数(全国国立大学附属病院臨床検査実態調査より)



検査部受付





島大病院ニュース 2020年6月

# ご報告



C病棟 1階 サテライトスポット



外来棟 1階 リニューアルオープン店舗

## タリーズコーヒー サテライトスポットの開店

アメニティ向上ワーキング

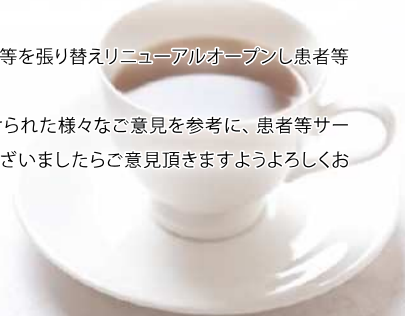
島根大学医学部附属病院では、喫茶運営事業者の公募を行い2020年度～2024年度の5年間タリーズコーヒーの選定を行いました。タリーズコーヒーは引き続きの事業継続となりますが、新たな取り組みとしてC病棟1階にサテライトスポットを設置いたしました。

これまで、AB病棟1階のみの喫茶運営を行っていましたが、新たにサテライトスポットを設けたことで、C病棟の利用者の患者さん、医師、看護師等が利用しており、患者サービス及び職員福利環境が向上し利用客の皆様大変好評です。

取扱商品としては、コーヒー、紅茶、サンドイッチ、焼き菓子等を扱っておりますので当院へお出向の際は、是非お立ち寄り頂ければ幸いです。

また、AB病棟1階の店舗においても、この度の選定に際し壁紙等を張り替えリニューアルし患者等サービスの向上に努めているところです。

なお、アメニティ向上ワーキングでは、今後も患者さんから寄せられた様々なご意見を参考に、患者等サービスの向上に努めていきたいと思っておりますので、お気づきの点がございましたらご意見頂きますようよろしくお願いいたします。



島大病院ニュース 2020年6月

# ご報告

## PET/CT検査の運用開始 ～ 10月稼働予定 ～

放射線部 部長 教授 きたがき はじめ  
北垣 一

FDG-PET/CT (PET) 検査は悪性腫瘍 (早期胃がんを除く) の診断において病期、再発および転移診断に適用されており、包括的ながん診療を拡充するために必要不可欠な検査です。島根大学医学部附属病院では、新規に半導体 PET/CT 装置を導入し、10月稼働を目指し準備を進めています。半導体 PET/CT 装置は最先端機器で国内でも導入台数が少なく、通常の画像診断だけでなく、臨床研究においてもアドバンテージがあります。

### 半導体 PET/CT 装置とは

従来の装置ではγ線 (放射線) 信号は、アナログからデジタルへの変換が必要でしたが、半導体検出器では直接デジタル信号に変換しますので、画像劣化のない高精細画像が取得できます。従って画像診断に重要なFDG (薬剤) の集積量を表す定量値 (SUV: Standard Uptake Value) の精度や信頼性も向上しています。また、検出器の高感度、高分解能化が実現されたことで、検査時間が短縮でき、さらに患者さんにとって優しい検査になります。工事・設置が終わり、順調に稼働いたしましたら、他院からの検査依頼もお受けする予定にしています。より多くの患者さんの診療に役立つようにスタッフ一同で準備いたしますので、今後ともよろしくお願いいたします。

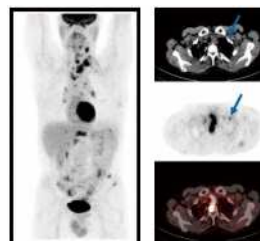


図1 微小病変の検出

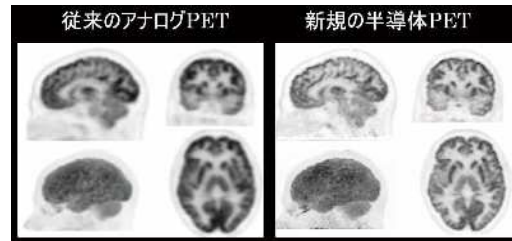


図2 脳領域での画像



導入予定のPET/CT装置  
(画像提供: フィリップスジャパン)

ご報告  
島大病院ニュース

2020年6月発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援 (地域医療) 担当  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



ご報告  
島大病院ニュース

2020年6月発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援 (地域医療) 担当  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>







# ご報告

## 定位放射線照射について

放射線治療科 診療科長 たまき ゆきひさ  
玉置 幸久

定位放射線照射とは、通常の外照射よりも高い精度で位置決めを行い、放射線をごん病巣の形状に正確に一致させて集中的に照射する治療法のことです。

そのためがん病巣への放射線集中性は格段に向上します。また体全体を容易に動かないように固定すると、がんの体内位置における動きがなくなり放射線の狙いがより正確になります。また線量集中性が良いため、周辺の正常組織へのダメージも低減することができ、副作用の少ない治療法としても注目されております。

ご高齢の患者さんや合併症を有する患者さんであっても、当治療法を受けることができます。

定位放射線照射を行うためには厳しい基準が設けられており、頭部・頸部では2mm、それ以外の体幹部では5mm以上ずれが起こらないような位置精度が求められます。

当院では現在、治療棟の建屋の許可線量の関係で頭部の定位放射線照射は特殊な症例に適応を制限しておりますが、肺（原発性肺癌または肺転移）や肝臓（原発性肝癌または肝転移）への定位放射線照射は積極的に行っております（図1）。肺と肝臓に対する定位放射線照射の線量分布図を図2、図3にお示します。

さらに、2020年3月の診療報酬改定において、定位放射線照射に対する適用疾患が大幅に拡大され、新たに原発病巣が直径5cm以下であり転移病巣のない原発性腎癌、転移病巣のない限局性の前立腺癌又は腺癌、直径5cm以下の転移性脊椎腫瘍、5個以内のオリゴ転移及び脊髄動脈静脈奇形が新たに加わりました。

腎臓癌や骨転移なども定位放射線照射で治療する時代がきました。定位放射線照射は当科だけでなく、原発巣の臓器診療科とともに治療を行います。

定位放射線照射についてのお問い合わせは放射線治療科もしくは原発巣の臓器診療科で承っております。

なお、2023年度に稼働予定の新治療棟が完成しましたら、頭部を含む全身に順次治療対象を拡大していく予定です。



図1 年度別・部位別の定位放射線照射の件数

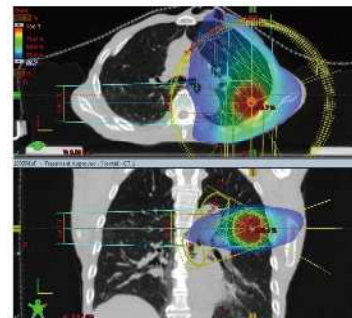


図2 肺癌に対する定位放射線照射の線量分布図

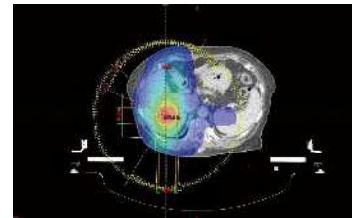


図3 肝癌に対する定位放射線照射の線量分布図

問合せ先 放射線治療科 TEL:0853-20-2582



# ご報告

## 「低血糖お知らせ機能付き」 持続血糖測定器のご紹介

内分泌代謝内科 助教 もりた みわ  
守田 美和

家庭での血糖値測定は指から血を出して測定する血糖自己測定器が一般的ですが、最近では皮下に刺した細いセンサーにより皮下の間質液中の糖濃度を持続的に測定することで、1日の血糖変動を知ることができる医療機器が広まっています。

特にフリースタイルリブレというICカードのように腕に装着したセンサーにリーダーをかざすことで値を確認できる機器は多くの方に使用されるようになりました。ただ、リーダーをかざさないと値は表示されず、低血糖になっていたとしても機械はリアルタイムでは教えてくれないのが問題です。

当院では、「アラート音でリアルタイムに低血糖や高血糖を知らせてくれる」機能付き「リアルタイム持続血糖測定器」を導入しています。とても有用な機械ですが、使用に際し、施設認定が必要な機器であり導入施設は

限られているのが現状です。現在、「DexcomG4」「ガーディアンコネクト」という2機種が使用可能で、当院では両方採用しています。あらかじめ設定した値（低血糖・高血糖）になると、「DexcomG4では専用モニター」、「ガーディアンコネクトではスマートフォン」から音が鳴り知らせてくれますので、血糖変動が大きい方や無自覚性低血糖のある方には特にお勧めです。日々の血糖値もグラフ付で「DexcomG4では専用モニター」、「ガーディアンコネクトではスマートフォン」で確認することができます。

1週間のみのお試し使用（低血糖リスクのある2型も可）、継続使用（1型糖尿病のみ）と使い方も様々ですので、血糖コントロールにお困りの患者さんがおられましたらご相談ください。



ガーディアンコネクト：スマートフォンが知らせてくれる  
低血糖お知らせ機能付き持続血糖測定器 CGM

問合せ先 内分泌代謝内科（内科学第一） TEL:0853-20-2183





# ご報告

## 早期離床チーム立ち上げ

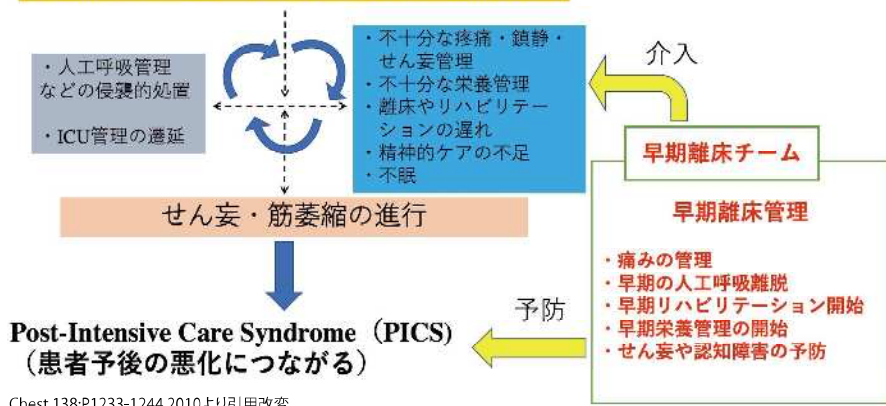
集中治療部 准教授 にかい てつろう  
二階 哲朗

集中治療部においては医師・看護師・薬剤師・理学療法士・臨床工学技士・管理栄養士・医師クラーク・看護助手など多職種が一丸となり、重症患者の予後の向上を目指しています。当院では年間約1000人の集中治療室の利用があり、侵襲的手術の術後、救急外来や院内において重症化した患者など、重症疾患と言われる多種多様な患者を受け入れ、治療にあたっています。そのため、治療効果の高い、効率的な治療が必要となり、最新の医療やケアの知識や技術が必要になります。また重症患者や家族に対しての全人的医療を行うことも重要です。

ここでは私たちが特に力をいれている、早期離床管理に関わるトピックスを紹介いたします。

集中治療患者は重症時大きな侵襲を受け、全身状態は悪化し、各臓器障害を起こすだけでなく、栄養状態悪化や筋力の低下を生じます。この状態は免疫力が悪化し、感染を引き起こすだけでなく廃用萎縮を起こしADLの悪化を生じます。悪化した疾患は治療できても、大きな後遺症を起こすことになります。Post Intensive Care Syndrome (PICS)と言われ、集中治療における重要な課題として取り上げられています。PICSを防ぐためにはどうすればよいのでしょうか？予防に最も重要なことは、集中治療開始早期より早期離床管理を行うこととなります。早期離床に必要な、痛みの管理、早期人工呼吸離脱、早期リハビリテーション、早期栄養管理、せん妄や認知障害の予防などを積極的に行います。院内では2019年より早期離床チームが立ち上がり、前述した多職種が連携し、その取り組みを行っています。またICUを退室した患者さんの元を訪問し、PICSが進んでいないか回診も行い、集中治療患者のフォローも行っています。

### 全身状態の悪化・強い炎症など侵襲的な状態



Chest 138:P1233-1244,2010より引用改変



# ご報告

## 広域食道がんに対する内視鏡治療

光学医療診療部 部長 准教授 しほがき こうたろう  
柴垣 広太郎

島根大学医学部附属病院光学医療診療部では早期食道がんに対する安全かつ精度の高い内視鏡治療に取り組んでいます。2015から2019年度の5年間で、食道がんの内視鏡的切除術を約200例施行し、全例で一括切除が得られています。幸いにこれまで穿孔・後出血などの合併症を認めていません。我々は10mm以下の食道がんは内視鏡的粘膜切除術(EMR)、それ以上は内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)を行っています。特に食道の半周以上を占める広域食道がんに対しては、全身麻酔下でのESDを行っており、これにより極めて良好な内視鏡治療条件が得られ、治療時間の短縮や合併症の予防に大きく貢献しています。

広域食道がんに対する食道ESD後の問題としては、食道狭窄が挙げられます。広域食道がんの食道亜全周ESDでは66%~75%、食道全周ESDでは100%に食道狭窄を合併することが報告されており、患者さんは食事を取れなくなり、QOLが大きく損なわれます。私たちは2015年から食道広域ESD後の狭窄予防として、食道内トリアムシノロンアセトニド充填法を考案しました(図1・2)。これにより良好な狭窄予防効果が得られ(Shibagaki K. Gastrointest Endosc 2018)、2020年に発表された日本消化器内視鏡学会の食道ESD/EMRのガイドラインでも有望な治療法として紹介されています(Ishihara R. Dig Endosc. 2020)。今後より安全で精度の高い食道内視鏡治療に努めて参ります。当院は内視鏡治療だけでなく、食道外科による胸腔鏡下食道切除術や、放射線治療科による放射線化学療法も積極的に行っており、症例がございましたらご紹介頂けると幸いです。

図1 食道内トリアムシノロンアセトニド充填法

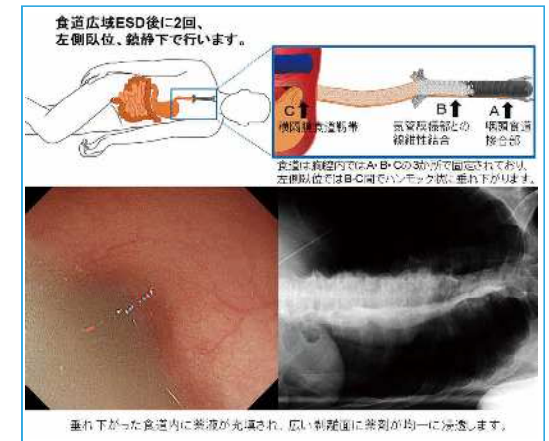


図2 実際の症例







島大病院ニュース 2020年6月

# ご報告



退院後訪問(これから行ってきます)



患者さんと緩和ケア認定看護師の合作  
「春の宴」

## 緩和ケアセンタースタッフによる退院後訪問

なかに としひこ  
緩和ケアセンター センター長 教授 中谷 俊彦

緩和ケアセンターは、院内の各専門職種が集まり構成されています。緩和ケアにとって重要なことは、患者さん、ご家族、さらにご本人にとって大切な方々へのケアをチーム医療で行うことにあります。各職種スタッフは専門資格を取り、さらなる向上を目指して日々活動しています。特に緩和ケア関係の認定・専門資格を持つ看護師が増えて、当センターでは緩和ケア認定看護師3名、がん看護専門看護師1名が活躍しております。また、緩和ケア認定看護師はさらに院内に2名おり、都道府県がん診療連携拠点病院として充実した看護スタッフと言えますと自負しています。この資格を得るためには、指定病院での実地研修を含むなど長期間の専門教育受講が必要で、最後の関門となる学科試験もそれなりの厳しい試験がございます。このようにスタッフが充実してきている中で、さらなる地域医療連携を強化するために、緩和ケア病棟を退院された患者さんへの「退院後訪問」を開始しております。今までに10件訪問しました。患者さん・ご家族から「大学病院と地域医療の皆さんが共に診てくれることが嬉しい。」「症状ケアの改善に役立つ。」など喜びのご感想をいただいております。地域医療と先進医療が調和する大学病院の緩和ケアセンターとして、最近のトピックスをご報告いたしました。



島大病院ニュース 2020年6月

# ご報告



入院生活を送っている子ども達と発表会

## 『おおきくなったね』を開催しました

ながた りか  
看護部 病棟看護師長 永田 里佳  
おがわ こずえ  
病棟保育士 尾川 梢

小児病棟には保育士が勤務しており、四季行事や色々なイベント企画、個別保育といった活動をしています。入院生活を送っている子どもが発達をしていく上で遊びが大切であり、保育園等の施設では運動会やクリスマス会、発表会など様々な行事を体験することができますが、入院中にはそれらの行事を経験することが困難でした。そこで、2019年度は初めて集団保育を取り入れて活動してきました。このような行事体験を入院している子どもたちにも経験させてあげたいという保育士の思いから集大成として3月に発表会を行いました。

劇【カラフルパレット～あしたへかける にじ～】と題し、子どもとその保護者7組が可愛いクレヨンになって発表をしました。病気を持った子どもであることを頭に、治療をしながらでも参加できるような内容の劇を考えました。全員揃ったのは当日が初めてでしたが、出演者全員で力を合わせて1枚の絵を完成させるという劇を演じることができました。クレヨンたちが描いた線が重なっていくと【にじ】になり、最後は会場にいる全員で【にじ】の歌を歌いました。練習では控えめであった子どもたちも、発表会当日は衣装を着てクレヨンに気持ちが切り替わったのが張り切って発表することができました。入院生活という限られた環境の中ですが、この1年で身も心も大きく成長し、発表会後には、やり切った達成感と自信でニコニコ笑顔が輝いていました。

※現在はコロナウイルス感染拡大防止のため、行事やイベントを一部中止しています。



2020年6月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



2020年6月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>

